

平成30年度アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取県立米子養護学校

- 1 研修テーマ 「キャリア発達を促す授業づくり～自ら考え、判断し、表現する児童生徒の育成～」
- 2 実施期日 平成30年12月5日(水) 9:45～16:30
- 3 実施場所 鳥取県立米子養護学校
- 4 アドバイザー 広島大学大学院教育学研究科 准教授 竹林地 毅 氏
- 5 研修内容
午前中は各学部1グループずつ授業を参観していただき、午後に授業改善に向けて指導、助言をいただき、続けて『児童生徒が自ら考え判断し表現する授業づくり』をテーマに講義をしていただいた。

6 指導助言・講義の内容

(1) 指導助言

○小学部 『生活単元学習』 単元名：「ミッキーカフェをしよう！」

児童に常に問いかけをすることで、児童の意見を引き出し、それによってカフェの計画や実施をしているため、訪問した授業の中で1番よく児童が活動していた。児童をもっとほめていけるようにするといい。(結果をほめる・手順をほめる・態度をほめる・発想をほめる・手がかりの見つけ方をほめる・表現や説明をほめる・学びあいをほめる・友達へのかかわりをほめる・学習の振り返りをほめる・学習のまとめをほめる)

○中学部 『生活単元学習』 単元名：「みんなで○○さぎょうしょをつくろう」

教師がたくさん準備し過ぎている印象がある。道具の準備では生徒が必要な物を自分で取りにくるとか探すとか、活動をさせる。また、物を誰かが配るなど生徒同士のやりとりする場面を設定すればよい。一方、活動そのものについて生徒が必要性或必然性を感じることができたり、生徒がわかりやすいように授業の構造をシンプルにしたりすることを再検討する必要がある。

○高等部 生活コース『保健体育』 単元名：「ゴー！ ゴー！ チャレンジサーキット！！」

重複学級の生徒の「思考・判断」は目に見えにくいので評価しにくいですが、保健体育においては、サーキットの中の2本の棒をくぐり抜ける方法を生徒なりに考えさせたり、他の活動で鬼ごっこや壁タッチ、ミニ凧、しっぽとり、フラフープなどのゲーム要素のあるものを取り入れてみたりするのもよいのではないかと考える。

(2) 講義

①「児童生徒が自ら考え、判断し、表現する授業づくり」というテーマで、①めざす教育・授業づくり(主体的・対話的で深い学び)のプロセス ②授業づくりのポイント(「学びのつながりのある単元・授業」「学びの文脈がある単元・授業」「課題解決のプロセスがある単元・授業」「人との関わりがある単元・授業」) ③学びを深める学習評価 についての講義をして頂いた。冒頭には児童生徒が「やりたいこと・なりたい自分」に向かっていくために「教師が教えない授業」の提案をされた。そして「幅広い知識と経験に基づき、児童生徒の興味を引き出し、主体的・積極的な参加を促す授業づくり」「自分の授業の型をもちながらも多様・柔軟な授業実践」「児童生徒と対話しながら、つまずきやずれに対応する授業実践」「授業中に即興的に思考し、振り返り、重要なことや鍵となることに集中した振り返りの実践」、つまりは児童生徒の主体性や思考を引き出す授業の工夫の実践を示唆された。

7 まとめ

昨年の本校の課題であった「自ら考えたり判断したりして活動する授業づくり」を今年度進めているが、具体的に単元の組み方や授業の展開の仕方等どのようにしたらよいか迷いながら取り組んできた。今回各学部の授業提案についての指導助言を受けて、各学部の課題が明確になったこと、こんなことをしてみてもどうかとヒントを頂けたことが本校職員の学びの一つとなった。また単元・授業の展開については、児童生徒が体験を経験にしたり、意味が分かったり実感できたり、必然性や必要性がもてたりする工夫を行うことを示唆された。

重複障がい児童生徒はなかなか思考・判断の姿を見ることが難しいが、複数の教師や保護者と語り合ったり、関わったり離れたりして児童生徒を観察することで理解できることがあるということも示唆された。今後も児童生徒が自ら考えていける授業づくりを学校全体で取り組んでいきたい。